



スペースRデザインの物件に
自分らしい“シゴトバ”を構える人々。

STYLE

01

「リノベマンションSTYLE」▶ 新高砂マンション編

1977年に完成した賃貸マンションを仕事場にした中村さん。漆商品の企画、販売卸業を営む彼女にとって、昔ながらのマンションの贅沢な造りがビジネスの上でも大きなメリットになっている。

《株式会社jCOCOMO 代表取締役》中村恵子さん

「ここなら、東京ではできない
「仕事場」を作っていける。」

時に出会ったのが新高砂マンション。このマンションがある清川は昔ながらの下町の風情が残る一方で、天神や博多駅へも歩いて行ける距離。都心部で打合せをする機会が多いからこそ、オフィスは気持ちを切り替えられる穏やかな場所が良かったから好都合です。静かな環境に加えて交通の便もいい清川は私にとって絶好の仕事場でした」

立地に加えて中村さんがオフィスに求めた条件は「広さ」。まとまった数の商品を保管し、検品、梱包、出荷の作業を行えるスペースの確保が不可欠だった。

「現在借りている新高砂マンションは45㎡。在庫管理のスペースに加えて、梱包材や段ボールといった資材を置く場所も十分に確保できます。しかも、古いマンションだから廊下の幅も広く、運送会社に大型の荷物を運んでもらう際もスムーズ。共有スペースが狭いオフィスビルではこうはいきません。ほとんど即決で賃貸契約をしたんです」

さらに、内装は自分らしく手を加えられる新高砂マンションのシステムも気に入った。



「これから少しずつjCOCOMOの色をつけていける。手を加えられる自由があるから、遊べる楽しみもあるんですね。スタッフと一緒にあれこれプランを練っています」

さらにこちらで印象深いのが広いベランダ。ここもまた中村さんの心をつかんだひとつの要素だった。「今はまだ何も手を付けていませんが、ここは将来グリーンを入れて、海外のリゾート地のようなカフェテラスにしようと考えています。ここでjCOCOMOの漆器を使ってお客様に飲み物や料理を振舞い、商品の良さを体感していただけたら面白い。これまでの発想にないプレゼンがどんどん実現できると思うんです」

東京への出張も多い中村さんは、「福岡」への全国的な注目度の高まりを肌で実感しているという。「東京だと、私が計画するようなリゾート的要素を持ったオフィスを都心近くに構えるなんて、まず無理な話。でも福岡ならそれができるんですよ。旅の思い出のように、「福岡でこんな面白い場所があったんだよ」って、自慢できるエピソードをたくさん持って帰ってもらえるはず。東京の人では味わえないようなオフィスづくりが、ここ福岡ならできるんだ。新高砂マンションに仕事場を持ち、ますます強く感じています」



福岡の老舗漆器販売会社で生まれ育った中村さん。海外での暮らしを経て改めて日本文化の魅力に気づいて帰国。現在は「jCOCOMO」という独自のブランドを立ち上げ、日本各地の漆職人とタッグを組んで「今、そしてこれからの漆器」を発信している。

「実家が住吉だったので、ビジネスの拠点となるオフィスを探す時も馴染み深い住吉や清川周辺がいいなと考えていました。そんな



左 / 仕切りの向こうはキッチンスペース。仕切り戸に壁紙を貼るのが楽しみと中村さん。右 / 大きな荷物の発送に便利な広い廊下。



「リノベマンションSTYLE」

物件名 新高砂マンション

こんな方におすすめ!

街の雰囲気をも強みにして
独自のビジネスを構築する人

物件の特徴

天神、博多駅に好アクセスな立地

個性的な店が集まる活気あるまち

入居後のカスタマイズ可能

ゲスト宿泊用のファミリアルームあり

新高砂マンションの物件詳細はP6・7へ!